

新規事業採択時評価結果（平成18年度 新規事業化箇所）

担当課：九州地方整備局 道路部 地域道路課
担当課長名： 的場 眞二

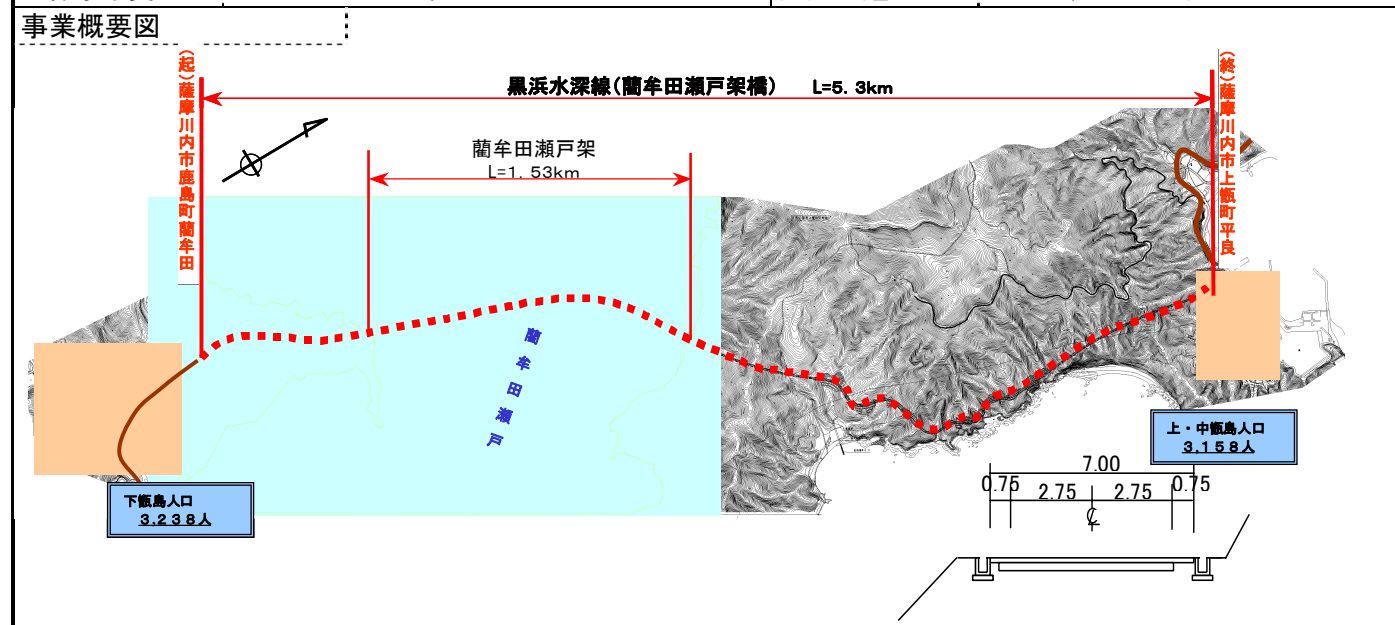
事業の概要

事業名	一般県道黒浜水深線 蘭牟田瀬戸架橋	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県
起終点	自：鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田 至：鹿児島県薩摩川内市上甑町平良	延長	5.3km		

事業概要
 ・甑島を縦断する道路の整備については重点的に進めてきたところであり、平成6年3月に上甑島と中甑島が2つの橋梁で結ばれているが、未だに中甑島と下甑島とは蘭牟田瀬戸により隔てられている。
 ・本計画区間は、唯一の未開通区間である中甑島の平良地区から下甑島の蘭牟田地区間の約5.3km区間（うち海上部約1.5km）について整備し、全島的な陸上交通ネットワークの形成を目指すものである。

事業の目的、必要性
 ・平成16年10月12日に川内市など本土1市4町と外海離島である甑島4村が将来を見据えた広域合併を成し遂げ、今後、ますます甑島旧4村の繋がりが重要視されている。
 ・また、架橋建設により甑島列島が一体化され、全島的な陸上交通ネットワークが形成されることから、公共施設の集約や高等学校等の設置が可能となることや、防災・救急・医療体制が向上すること、観光業をはじめとする地域産業の振興に寄与すること、本土を含めた交流圏の拡大により観光客の増加が見込めることなど大きな事業効果が期待でき、市町村合併への強力な支援となる。

全体事業費	220億円	計画交通量	1,500台/日
-------	-------	-------	----------



関係する地方公共団体等の意見
 ・当計画は、甑島島民の長年の念願であり、県としては、厳しい財政状況ではあるが、甑島を含めた1市4町4村の市町村合併を期に、地方債（合併推進債）の有効活用を図りながら架橋建設を実現し、甑島の一体的な発展を図りたい。

事業採択の前提条件
 費用対便益： 便益が費用を上回っている。（B/C=1.24）
 円滑な事業執行の環境： 沿線自治体や地元期成会から強い要望があり、整備促進に協力的である。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.24	総費用： 167億円 （事業費： 165億円 維持管理費： 2億円）	総便益： 207億円 （走行時間短縮便益： 207億円 走行費用減少便益： 億円 交通事故減少便益： 億円）	基準年 平成17年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)		
		事業費変動	B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)		
	事業期間変動	B/C= (事業期間 %)	B/C= (事業期間 %)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策				
		事故対策				
		歩行空間				
	社会全体への影響	住民生活	○	未供用区間が解消され、甑島の一体的な陸上交通ネットワークが確保されることにより、人・ものの交流・物流が盛んになる。		
		地域経済	○	定期船の寄港地の集約されることにより、陸上・海上交通の効率化が図られる。		
災害		○	全島の陸上交通ネットワークが形成されることから、災害（火災等も含む）の緊急時における島内での応援体制の確立など防災面での効果もある。			
環境		○	自然環境に配慮した道路整備を行うことで、環境への悪影響はない。（環境調査実施済み）			
	地域社会	○	未供用区間が解消されることにより、島内の移動が容易になることにより、観光業をはじめとする地域産業の振興に大きく寄与する。			
事業実施環境		○	地元薩摩川内市や薩摩川内市長が会長である「蘭牟田瀬戸架橋建設促進期成会」等から強い要望があり、整備促進に対して協力的である。			

採択の理由

費用対便益が1.24と便益が上回っていること、円滑な事業執行の環境が整っていることから事業採択の前提条件が確認できる。また、架橋建設により全島的なネットワークが形成され、防災・救急・医療体制が向上することや本土を含めた交流圏の拡大により観光客の増加が見込まれ、観光業をはじめとする地域産業の振興が図られることから、地域経済への効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。